生徒指導部通心（信）第19号（２０２６．11．４）

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「人生はアップで見ると・・・・・・・・・・・・・悲劇だが
ロングショットでは・・・・・・・・・・・・・コメディだ！！」

By　チャールズ・チャップリン～

あの頃・・・あんなに悩んでいたはずなのに・・・今振り返ると・・・ただ・・・
「あーーーー　アホだったなーーーーーー　俺！私！」
と、思うことありませんか？
今回も・・・ひすい　こたろう　さんの本『心にズドン！と響く「運命」の言葉』からです。
では・・・どうぞ

小学校の時にすごくイヤだったことがあります。
それは・・・歌のテストでした。
クラス全員の前で一人ひとり歌うのですが・・・僕はかなり歌が苦手なので、歌うと・・・
クラスのみんなが、そして大好きだった〇〇ちゃんにまで笑われるのではないか・・・
それがつらくてつらくて・・・僕は・・・毎晩寝る前に・・・
「どうか歌のテストがこの世からなくなりますように・・・この世からが無理なら・・・新潟エリアだけなくなるのもOKです。お願いします」
とお願いしました。
しかし・・・願いは残念ながら届かず・・・



僕は最後の手段に出ることにしました。
歌のテストの当日、ずる休みすることにしたのです。
根がまじめな僕にとって、ずる休みするという決断には、ものすごい
罪悪感が襲ってきました。
でもやむを得ません。
好きだった〇〇ちゃんに笑われるのだけは断固阻止しなければならないからです。
そんな決死の思いで、何とか逃げ延びた歌のテスト・・・

翌週・・・**「ひすいくん、先週お休みだったよね。今日歌ってもらうから。」**
という大どんでん返しが待っているとは夢にも思いませんでした。よけい目立ちましたから・・・

あの頃・・・あんなに悩んでいたはずなのに・・・今振り返ると・・・ただ・・・
「あーーーー　アホだったなーーーーーー　俺！」
と、昔の自分がとてもかわいく思えて、笑えます！
あなたも思い出してみてください。
保育園・幼稚園・小学校の頃、つらかったことって、今思い出すと笑い話になってたりしませんか？
どんなつらい思い出も・・・いつか・・・それは・・・喜劇に変わるかもしれません。

ベートーベンは、命尽きる直前にこう言ったといわれています。
「友よ！拍手を！喜劇は終わった」と。
今、目の前に起きていることへの不安や・・心配・・・はつらいことかも知れません。
でも・・・数年後、十年後には**「あのときのアレがあったからこそ今の自分がいる」**とか・・・
ひすいさんのように・・・**「あーーーー　アホだったなーーーーーー　俺！」**
・・・そんな昔の自分がとてもかわいく思えて、笑えることになるかもしれませんね。

